

鹿児島の
路傍300種図鑑
離島編



鹿児島県立博物館

発刊にあたって

南北600kmの鹿児島県は、温暖帯区と亜熱帯区の境界をもち、県本土と南西諸島は地理的な相違があるため、変化に富んだ世界的にも貴重なすばらしい自然に恵まれています。この豊かな自然への理解を深め、自然を守る心が育まれることはきわめて大切に思われます。

そのためには、まず、身近な自然に目を向け、動物や植物などを知ることが大切です。

このため、鹿児島県立博物館では、「路傍300種に親しむ運動」を展開し、動植物・岩石等をやさしくわかりやすく解説した解説集を発刊してきました。

昨年度、この解説集の県本土編をカラー化し、「鹿児島の路傍300種図鑑（県本土編）」を発刊しました。これは、県内外で大いに活用されていると聞いています。

本年は県本土編に引き続き、続編として離島編をカラー版で発刊することといたしました。2冊そろったことにより、鹿児島の自然を理解する導入書としての役割を果たせるものであり、身近な自然への誘い役を十分果たしてくれるはずです。

人と自然との係わりかたが問われている昨今、本書が多くの中で活用され、自然に対する理解を深め、自然保護等の一役を担うことを願っています。

平成5年3月

鹿児島県立博物館長

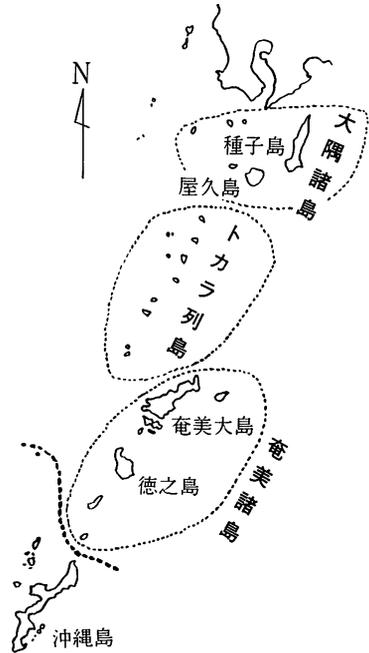
立 園 多賀生

目 次

路傍 300 種に親しむ運動について.....	1
路傍 300 種の目録と掲載頁.....	4
植 物.....	8
昆 虫.....	63
貝	100
岩 石.....	131

＝目録・分布表の見方＝

- 番号を○でかこんだものは、県本土編との共通種です。
- 九（本県に属する九州本島）、熊（種子島、屋久島などを含む大隅諸島、三島村、熊毛郡）、ト（トカラ列島、十島村）、奄（奄美諸島、大島郡）。
- 分布表の○印は、その地域に分布（土着）することを示しますが、空欄は、①その地域に分布していないということのほか、②分布している可能性が大きい場合を含みます。昆虫の△印は、個体数が必ずしも多くないもの。



路傍300種に親しむ運動について

県立博物館では、昭和59年度から「豊かな自然の中で郷土の教育をすすめよう」とか「科学に親しむ風土づくり」という県政の力点に呼応して、「路傍300種に親しむ運動」を3年間推進しました。これは、身近な生物や岩石の名前を知ることにより、郷土愛や自然を大切にする心の育成をめざしたものです。

「路傍300種」とは、かつては、草、虫、貝をそれぞれ300種ずつ知っていれば、博物の先生がつとまるといわれ、この言葉が生まれました。

この運動は、県内各地で実施した「路傍300種学習会」を通して広く深く県民へ浸透していき、その地域にふさわしい「路傍300種」の選定や独自の「学習会」も開かれるようになりました。

その後、昭和62年度から5年間推進した「調べよう鹿児島自然」では、自然の中にもう一步踏み込み、県民の積極的な参加を求めながら、郷土の自然の姿をあきらかにしました。

さらに、平成4年度からは、「自然のつながりリサーチ」に受け継がれ、名まえも「路傍300種探索会」として推進しています。

「路傍300種に親しむ運動」は、県立博物館の自然に関する館外活動の底辺に絶えず流れているものであり、身近な自然の姿を認識することによって、郷土はもちろん地球全体の環境保全をめざす運動なのです。

この運動をすすめるにあたって

1. あなたは自然の名探偵

自然は多彩です。目にふれるものを手あたりしだいに採集して、名前を調べようとしてもうまくいきません。近年、多くの図鑑やガイドブックが出版されていますが、それでもこれは大変困難な作業です。

それなら、逆に、まず名前を知り、その特徴を調べあげてから、自然の中へそれを探しに出たらどうでしょう。あなたは自然界の名探偵というわけです。

これは、身近な自然の中に、300人の友だちを探し求める運動です。

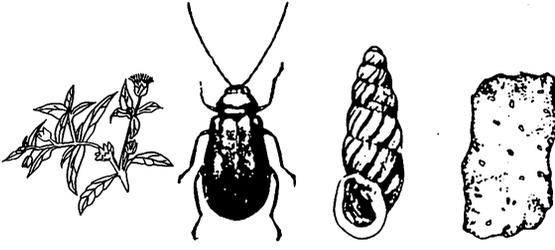
対象を草木・虫・貝・岩石に限ったのは、身近にあり、手にとってじっくり見ることが出来るものから始めようということです。野鳥もトカゲも、カエルも魚も大切な友だちですが、これらは将来の楽しみに残しておきましょう。



自然保護憲章

自然をとうとび、自然を愛し、自然に親しもう。
自然に学び、自然の調和をそこなわないようにしよう。
美しい自然、大切な自然を永く子孫に伝えよう。

2. こんな300種を選んでみました。



植物145種

昆虫90種

貝50種

岩石15種

1. 身近に普通に見かける種類で、名前をよく知っているもの。オオバコ、タマムシ、イボアナゴなど。
2. よく見かけるのに、名前を知らないようなもの。ハチジョウウカグマ、ウスバキトンボ、サヤガタイモガイ、ネンバン岩など。
3. 名前は知っており、身近に多いにもかかわらず実物を意外に知らないもの。ワラビ、ハハコグサ、マツムシなど。
4. ありふれているのに、見過ごしがちなもの。イヌガラシ、ヤマトシジミ、ヨメガカサガイなど。
5. 名前が少し変わっていて、ちょっと探してみようかという気になるもの。タカサブロウ、オオゾウムシ、ニッコウガイ、ホルンフェルスなど。
6. 方言は知れわたっているので、正式な名前まで知ってほしいもの。カカランハ、油虫、ナガラメ、ミカゲ石など。

気をつけましょう

- むやみに採集することはひかえましょう。
- 危険なことはやめましょう。
- 他人に迷惑をかけないようにしましょう。

3. 離島の路傍300種の選定について

昭和59年度から始まった「路傍300種に親しむ運動」は時宜を得たものとして各方面で歓迎され、確かな広がりを見せつつありますが、ここに県本土編に続く離島編の路傍300種の目録を作成しました。

本県には離島が多いというだけでなく、トカラ列島を境にして生物相が激変するという特色があり、各島に特有な種も少なくないことなどから、いわゆる普通種を選定する作業は必ずしも容易ではありませんでした。

その結果、植物、昆虫・貝・岩石の合計を300種にはしましたが、各島の合計種類数は多少不ぞろいになっています。このような欠点を少しでも補うべく、目録に簡単な分布表を付けました。とくに、昆虫や植物については、本土編との共通種を多くするように選定してあります。

「路傍300種に親しむ運動」は、それぞれの地域で、それぞれの300種を選定して展開していただくことによって、地についたものとなります。この目録がその一助になれば幸いです。

4. さあ、次の順序ですばらしい鹿児島島の自然の観察を始めましょう

(1) 300種の目録を見て、すでに知っているものに○印をつけます。

(2) 探してみようと思う種類をきめます。

シダ類とか、セミ類とか、小さな特定グループから始めるとよいでしょう。

(3) この本や一般の図鑑で下調べをします。

いつ、どこで、どんなふう探すか、形、色、大きさは？

(4) メモ帳とポリ袋を手に、ぶらりと野外へ出かけましょう。

何となく眺めていた自然から、見つめる自然へ、さらに探索する自然へ。頭のチャンネルを切りかえましょう。

(5) 少し持ち帰って、図鑑や博物館の標本などで確認します。

調べた材料は捨てないで、栽培・飼育したり、標本にして長くつき合おうと、さらに深い勉強ができます。

(6) 300種から少しずつ輪を広げましょう。

何にでも手広くもよいですが、狭く深く、小グループを追求することをすすめます。

鹿 児 島 の 路 傍 300 種 図 鑑 (離 島 編)

発 行 年 月 日 : 平 成 5 年 (1993 年) 3 月 31 日

編 集 ・ 発 行 : 鹿 児 島 県 立 博 物 館

〒 892 鹿 児 島 市 城 山 町 1-1 TEL 0992-23-6050

FAX 0992-23-6080

印 刷 所 : 洩 上 印 刷 株 式 会 社

